

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年10月2日 第7号
TEL 048-477-6053 URL <https://j-daiyon-c-niiza.edumap.jp/>



あまた 数多見られた、笑顔の共有

校長 鮫島 弘樹

最後のコーナーを力強く駆け抜け、そのまま1着でゴールした仲間の走りを目で追っている生徒がいました。9月16日に行われた体育祭での一場面です。

選手がゴールテープを切る直前から立ち上がり、顔をほころばせながらその場でぴょんぴょん跳びはねています。

仲間が1着になった喜びを全身で表すその生徒に限らず、そばにいた同じクラスの生徒たちも、手を叩きながら同じように相好（そうこう）を崩しています。

今年も、プログラムの一つに応援合戦がありました。赤と青、両団の中心となる生徒が一から構想を練り、約250人で構成する応援を披露してくれました。

夏休みに入る前から、パフォーマンスやダンスの組み立てを考え、ストーリーとして全体をまとめ上げていきました。さらに、振り付けを効率よく団員に覚えてもらうため、Chromebookを活用するなど工夫を凝らし、限られた時間の中で練習を重ねながら、両団ともギリギリで当日の発表に間に合ったようです。

3分間の応援を披露した後、多くの生徒が笑顔でお互いの顔を見合っていました。やり切った後にあふれてくる、自然でさわやかな笑顔です。

「面白い話を聞いた時や、嬉しいことがあると、人は笑顔になる」「さらに、仲間と力を合わせて何かをやり遂げた後にも、自然に笑顔があふれてくるもの」
開会式で私は、このように話しました。

「一生懸命走って、跳んで、応援して、その後自然にあふれてくる笑顔を仲間と共有する場面が、1つでも多く見られる体育祭にして欲しい」

正味約4時間の体育祭は、ひと昔前に比べるとコンパクトな印象を受けます。

しかし、よい結果を笑顔で喜び合う姿や、やり切ったにこやかに声を掛け合う場面、うまくいかなかった仲間にさりげなく近寄り、一声かけてほほ笑む姿などが至る所で見られ、多くの子供たちにとって楽しさや学びのある、濃密な時間になったのではないかと感じています。

「経験に勝る知識なし」という言葉があります。YouTubeなどで面白い動画を観てゲラゲラ笑うのとは違い、「自然に笑顔があふれてくる楽しさ」は、自分が直接人と関わり、実際に活動しなければ味わうことができません。

この経験が、第四中で学んだすべての生徒たちにとって財産となり、間接的であっても、これからの人生のどこかで役に立ってくれることを願わずにはられませんでした。

昨年度の体育祭は、参観を保護者の方のみに限定させていただき、そのことをずっと心苦しく思っていました。

今年は地域の皆様も含めて、約900人という大勢の方に四中生たちの姿をご覧いただき、大変嬉しく感じております。

残暑厳しい中にも関わらず、参観いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。